

開催期間:	2012,6,24～2012,9,17
一回目の送付の際は文字は黒で 2回目以降は修正部分を赤字にしてください	
スタッフ:	12 members
簡潔な短い文章にしてください。やっつけ仕事禁止	
支援者:	セミナー講師: 株式会社コーチ&パートナーズ アドバイザー3社 プレゼンテーション審査6社
簡潔な短い文章にしてください。やっつけ仕事禁止	
予算:	5,500 US Dollar
簡潔な短い文章にしてください。やっつけ仕事禁止	
利益／損失:	NONE
簡潔な短い文章にしてください。やっつけ仕事禁止	
誰の為に?	新潟市に住み暮らす人々811,901人
主語を忘れないように「我々 JCI〇〇は、」「我々委員会は、」です。	
目的:	我々JCI 新潟は、 地域に positive change を create 出来る、 若者たちの育成、支援、行動を 始める機会の創出を目的とする。

3行程度 400字以内

我々JCI新潟は:

①若者たちの育成

若者たちが、より良い社会を実現する夢、未来像(ビジョン)をもち、それを実現する事業手段を描くことへの支援。

②支援体制の構築

JCI新潟メンバーを含む社会人からなる、若者たちの夢を支援する体制(ネットワーク)の構築。

③行動を始める機会の創出

若者たちが夢を実現する手法(支援者を得ること)を学び、行動を始める切っ掛けとなるプレゼンの場、機会の創出。

以上を目的に、このプログラムを実施しました。

- ・長期に渡る経済低迷を一理由に、閉塞(ネガティブ)感が蔓延した日本社会。
- ・若者たちが夢を抱くことさえ難しくなって来ている現状。
- ・新しいことへ挑戦する人々があられなければ、社会を変革へのイノベーションも生まれず、より良い社会は生まれない。

故に、我々JCI新潟は、これからの未来を築いて行く若者たちに誰よりも、社会に positive change を create 出来る人財へと成長し行動を始める切っ掛け、機会を創出する必要があると考え、このプログラムを実施しました。

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

## 概要:

我々JCI新潟は、以下のプログラムを実施した:

### 【事前】

- ①JCI新潟は、この事業のHPを立ち上げ、このプロジェクトに参加する学生チーム、学生の夢を支援する社会人の募集を行った。
- ②JCI新潟は、学生の夢を支援する社会人からなる人的組織(ネットワーク)体制の構築を行い、インターネット上にメーリングリスト等の学生支援環境を整備した。

### 【事業】

③JCI新潟は、関係者が最初に一同に集う、開催説明会(セミナー)を2日に渡って開催した。学生たちは以下を主だった内容とする、社会 positive change を create 出来る人財になるための、夢を抱き描き実現する手法を学び。

- ・社会や他者への貢献が如何に自己欲求を満たす以上の自らの充実体験を得られるか
- ・他者依存や批判をすること無く、自らの行動にて問題を解決するより良い手法
- ・自分の夢を諦めない手法、問題をポジティブに捉え自身の行動にて解決する姿勢
- ・夢を実現する、社会に価値感動を創造することの重要性、プレゼンテーションの手法

社会人は上記に加え、学生の夢の良き支援者となるべく、メンタリングの手法や相互支援の重要性を学んだ。

- ④JCI新潟は、計4回、相互支援会を開催。関係者全員で集い、学生が描く夢とそれを実現するプランを高めるべく、互いにプレゼンし合い、ディスカッションを行った。
- ⑤JCI新潟は、全員で集う相互支援会を挟み、個別に各学生チームと社会人が集う個別支援会を複数回開催。学生の夢プランをブラッシュアップするための具体的なアドバイス等を行い、悩み諦めかけた学生に対しては最後までやり遂げるよう個別のフォローを行った。
- ⑥Dreamプレゼンテーションの場にて、学生たちは、自らが描いた社会に positive change を create する夢プランを、見た人に感動と共感を巻き起こす映像と音楽を使用しストーリーを語る(ドリームプラン・プレゼンテーションの)手法にて発表。Sponsorsからのコメントを各自もらう中、夢の実現に向けた支援者を得て、行動を始める切っ掛けの場とした。

<p>全部で 400 字以上</p>	<p>【事業後】</p> <p>⑦本プログラムを切っ掛けに自らの夢を描き実現に向けた行動を始めた各学生から、その後の活動の報告会が開催された。</p> <p>⑧JCI 新潟は、本プログラムの成果と実施を通じての経験と学びを提言書としてまとめ、配布を行った。</p> <p>⑨学生を対象に実施した本プログラムは、その後、広く新潟県民全体を対象とした新潟ドリームプラン・プレゼンテーションとして発展、2013 年に第一回目の大会を開催予定。</p>
<p>主語を忘れないこと、単語は 7 つ以下で 1 文とすること</p>	
<p style="text-align: center;">結果をキチンと確認しないとココは書けません。 解らない場合はすぐに関係者、参加者にアンケートをとり 関係者からのプラスとマイナスの評価を入手して下さい。</p>	
<p><b>結果：</b></p>	<p>我々 JCI 新潟は、このプログラムの実施を通じ、JCI ミッションとビジョンを推進した：</p> <p>①若者たちの育成 若者たちは、社会に positive change を create する各々のビジョンを抱いた。 彼らはそれを実現する事業手段を創造した。</p> <p>②支援体制の構築 JCI 新潟メンバーを含む社会人からなる若者たちの夢の支援体制(ネットワーク)は、 彼／彼女らを社会へ貢献出来る人財へと育成しました。 我々は夢を実現させる行動へのバックアップを行いました。</p> <p>③行動を始める機会の創出 若者たちは、支援者を得ることで夢を実現する手法を学びました。 プレゼンの場を切っ掛けに行動を始めた学生の一部は実際に行動。 ロボット義手を使い、障害者が健常者以上の活躍ができる社会の提案をした。 科学技術を活用して人々の悩みや社会の問題を解決する夢の一つを実現させました。</p>

当初、夢が無いと語っていた若者たち、自己欲求をただ満たす夢(旅行等)を語っていた若者たち。夢は漠然と抱いていたが実現する手段を知らなかった若者たちは、本プログラムを通じ、最終的には下記のような社会に positive change を create することで貢献する夢を描きました。

①エネルギー自産自消の文化を広めるべく、まずは、その第一歩の取り組みとして、世界一過酷なアタカマ砂漠マラソンを電気エネルギーを全て自給自足しながら走りぬく「エネランナー」として完走する挑戦の提案。

②心の悩みを抱えた人々に、ゲーミフィケーションを活用、仮想空間での行動を解析・分析し、現実世界へのカウンセリング、アドバイスへとフィードバックさせるシステムの提案。

③日本が誇るべき文化である、無人販売所、窃盗等もし放題に関わらず未だ地方では見かけることができる。現代IT技術を活用し、平和の象徴かつコミュニティの核となる新しい形の無人販売所を提案。

④人生の記録をタイムカプセルとして後世に残す提案。

自分のこれまでの一生を残したい記録はと改めて振り返ることで、その後の豊かな人生に転化させる、デジタル記録装置の提案。

⑤発展途上国等の貧困を無くし、子供たちの笑顔を増やしたい！

従来の一時的で終わるお金や物を提供するという施しでは無く、現地に設立するゲストハウスとスマートフォンのアプリでつなぎます。

日本人が欲するものを提供することで、彼／彼女らが自立出来る仕組みを提案。

⑥障害者が意識すること無く健常者と別け隔てなく生活できる社会を実現したい！ロボット義手を使い、障害者が健常者以上の活躍が出来る未来の実現、障害者が社会にとって必要不可欠となる時代の到来を提案。

プレゼンにて社会に positive change を create する夢プランを発表した若者たちは:

- ・アタカマ砂漠マラソンを「エネランナー」として完走、エネルギー自産自消の文化を広めるべく、その第一歩となる夢を実現。現在は次の挑戦に向かって疾走中。
- ・事業を立ち上げるべく、企業設立の準備中。
- ・発展途上国の現状を深く学び、彼／彼女らのニーズや提供できることを更に知る為に、海外青年協力隊に参加予定。
- ・夢を実現する技術を開発するべく、海外留学等、勉学や研究を進展中。

上記を一例に、引き続き、積極的に活動を展開、継続しています。

検証結果を簡潔に書いて下さい

主語を忘れないこと、単語は7つ以下で1文とすること

## 行動:

5月10日 学生チーム募集開始  
5月10日 支援者募集開始  
5月10日 HP立ち上げ  
6月24日 第1回 開催説明会(セミナー)  
7月1日 第2回 開催説明会(セミナー)  
7月2日～8月9日 個別支援会(複数回実施)  
8月10日 第1回 相互支援会  
8月11日～8月28日 個別支援会(複数回実施)  
8月29日 第2回 相互支援会  
8月30日～9月8日 個別支援会(複数回実施)  
9月9日 第3回 相互支援会  
9月10日～9月15日 個別支援会(複数回実施)  
9月16日 第4回 相互支援会  
9月17日 Dreamプレゼンテーション 本番当日  
10月16日 プレゼンテーション動画HPアップ  
10月17日 提言書 配布開始  
11月1日 第1回 報告会  
12月9日 夢(ドリーム)プラン・プレゼンテーション 2012 世界大会 学生チーム出演  
翌年2月19日 アタカマ砂漠マラソン挑戦 壮行会  
翌年2月23日 新潟ドリームプラン・プレゼンテーション 2013 開始  
翌年4月21日 第2回 報告会(アタカマ砂漠マラソン挑戦)  
翌年8月25日 新潟ドリームプラン・プレゼンテーション 2013 本番当日(※開催予定)

全部で 200 字以上  
2000 字以内程度

読めば委員会の事業前から  
事業後までの動きが  
だいたい、大まかに解るようにして下さい。

## 考察や推奨

JCI の持つ強みの一つに、豊富な知識と経験を有する強力な人的ネットワークがあります。その強みを活かし、Jaycees が社会に positive change を create 出来る人になるべく学び得るべきことを考える。  
そのとき、そこに全ての答えがあると、本プログラムを実施しました。

何かを学ぶ一番の手法は、実は、誰かにそれを教えることです。  
人に何かを教える際は、教える事以上の知識を学び得ている必要があります。  
故に、人は努力し、想定以上の知識を学び得ることが出来るのです。

ドリームプラン・プレゼンテーションの手法を活用した本プログラムにおいて、関わった人達は、社会に positive change を create 出来る人になる術、Jaycees に求められる根本的なことを学び、共に成長しあうことが出来ます。

我々JCI 新潟は、The JCI Mission に掲げられたことを成し遂げました。  
そこで学び成長を遂げた人財が active citizens となり、社会を率先して変革していく Jaycees となる、The JCI Vision に掲げられた理想を実現すべく、本プログラムを実施しました。



### 【想定以上の結果】

①参加した若者たち、皆が何か社会や他者に貢献したいという夢プランを描き始めたこと。

②プレゼン発表後の打上げの場にて。

若者たちが自ら自発的に集まり、円陣を組みだしました。

今日描いた夢は一生かかっても実現しますと宣誓を始めたこと。

③本プログラムに関わり、影響を受けた方々が、良い事業だと、自分たちも何かしたいと行動を始めた人があらわれました。その一結果として、新潟県民全体を広く対象とした新潟ドリームプラン・プレゼンテーションとして発展し継続したこと。

### 【要因と工夫】

①社会や他者に貢献する意義等、社会に positive change を create 出来る人財になるための知識を最初の段階で学んでもらったこと。

適切なアドバイスを得られる周辺環境を整備し、最適な後押しを周りからしたこと。

②若者たちに夢プランを描けと放り投げる単なるアイデア募集事業では無く、若者たちとメンターとして接する社会人などが共になって夢プランを描く事業であったこと。

真剣に若者たちと接することで、彼／彼女らの真剣さも引き出すことが出来たから。

③夢プランを真剣に描き、熱く語る若者たちと関わることで、自分たちもと、周りの人々への触発減少が起きた。

当初より、JC外への発展と継続を念頭に置き、外部の社会人を広く募った若者たちの支援体制(ネットワーク)を構築したこと。

	<p><b>【想定外の結果】</b></p> <p>①若者たちが語る夢を、決して若輩者と否定的に見るのではなく、豊富な知見を持って聞くことで、世界でも誰も成し得てない夢や、世界的にも最先端の夢、物事の本質を鋭くついた夢が、次々と出てきたこと。</p> <p>②否定を一切しない、発言する際は、肯定意見もしくは改善・改良への提案を提示するというルールを決め、ディスカッションを進めた結果、JC内は勿論、政治や外交の場でも決して見られないような、ポジティブかつ発展的な非常に濃い議論を進めることが出来た。</p>
	<p><b>【本事業の特色とポイント】</b></p> <p>①世界に広がる、皆が社会価値を高める夢を抱き、実現に向けた相互支援が生まれ、明るい豊かな社会を生み出す仕組みでもある、ドリームプラン・プレゼンテーションの手法を使用したこと。</p> <p>②社会に positive change を create 出来る人財になるために必要な要素を、しっかり知識として学べる機会を設けたこと。</p> <p>③継続的に社会に意識変革をもたらすべく、その仕組みづくりの構築、文化の形成を当初より狙い、積極的に外部を巻き込んだ事業を展開したこと。</p> <p><b>【次年度以降のメンバーへ伝えたいこと】</b></p> <p>①単年度制故の悩みでもあるが、外部への継続的な支援体制継続の重要性。</p>
<p>全部で200字以上</p>	

**【新聞記事掲載】マスコミによる地域でのプログラム価値の間接的評価**

6月2日 読売新聞(発行部数:11万部) 32面地域欄

9月13日 日本経済新聞(発行部数:4万部) 新潟欄

9月15日 読売新聞(発行部数:11万部) 32面地域欄

9月19日 新潟日報(発行部数:48万部)

11月27日 毎日新聞(発行部数:2万部) 新潟地方版

翌年1月15日 新潟日報(発行部数:48万部)